

第一礼拝次第

メッセージ: 伊禮信義先生

ライブ配信: 郭永東牧師



前奏
頌栄

540

会衆

主の祈り

会衆

プレイズ

「主イエス様はぶどうの木」

会衆

「主はあなたを守る方」

聖書朗読

第一ヨハネ 4: 11~17

司会

祈り

(新約聖書 P445)

司会

信仰告白

賛美

讃美歌 267

会衆

メッセージ

「神の愛がとどまる」

牧師

祈り

牧師

賛美

讃美歌 270

会衆

献金

報告

司会

頌栄

新生 672b

会衆

祝祷

牧師



第二礼拝次第

メッセージ: アドリアン・アルセ

司会: イゼキエル・アルセ兄 奏楽: 郭永東牧師

プレイズ: 「As the deer」 「In His time」

「His name is wonderful」

「Amazing Grace」



ファミリー礼拝

奏楽: 郭永東牧師

聖書: 列王記上 10: 1~13

メッセージ: 「ソロモンの失敗」

<巻頭言>

イエス様につながる

伊禮信義

先週の水曜日に行われたおちぼの会と水曜祈禱会では約一年間 11 回にわたって読み進めてきた「ヤコブの手紙」を読み終える事が出来ました。5 章からなる短い書簡ではありますがその一節一節の中に私達の日常生活における実践的な教えが数多く含まれており、読む私達に大いなるチャレンジを与えられました。この手紙の主題聖句としては 2 章 17 節にある「**信仰もこれと同じです。行いが伴わないなら、信仰はそれだけでは死んだものです。**」という一節と言えます。

私達は日常の生活の中で毎日祈り毎日聖書を読んでいます。日曜日には教会に集い新たな一週間の糧を御言葉から受けています。ところが、この蓄えられた御言葉が「単なる聖書知識」に終わってはいないでしょうか？あるいは自分に都合の良い「単なる御言葉の解釈」になってはいないでしょうか？いくら「知識」を蓄えても「知恵」として「行い」が伴わなければ、ヤコブ書の御言葉の通りに「信仰は死んだもの」と言わざるを得ません。ではどうすれば良いのか？それは先週の教会学校のテキストであった「知恵」を求めたソロモンに学ぶ事です。ソロモンは自分都合の長寿や富や戦の勝利を求めるのではなく「神の知恵」を求めました。「神の知恵」とはすなわち「イエス・キリスト」の事です。「イエス様」につながり続ける事です。この事によって、私達には一歩踏み出す勇氣、行動力、聖霊の力が与えられるのです。では「イエス様につながる」とは具体的にどのような事なのか？胡屋教会の今年度の主題である「主にある交わり」とはどのような交わりなのか？この朝は、この私達の疑問を聖書の御言葉から取次がせていただきます。